
ダイスキダヨ。

Y U I K A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ダイスキダヨ。

【Nコード】
N03850

【作者名】
YUIKA

【あらすじ】

夢に出て来る少女。

すべてが謎。

龍一は何も知らない。

知りたがらない。

本当は、

全部知っていたから。

俺の夢。(前書き)

なんでうちがホラーを(「。□」)?! 笑
って思ってます(TOT)! でも頑張ったんで見てください!
」は

俺の夢。

「ねえ！．．．ね！！龍ちゃんのことダイスキなの！」

…この子…誰だっけ……。

「龍ちゃんは、．．．のことダイスキ？？スキ？？スキでしょ！」

名前…なんだっけ……。

年は…5・6歳くらいかな…。

なんで俺の名前…知ってるの？

聞いてみる。

聞こえない。

………笑ってる？

「龍ちゃん！！あたし、龍ちゃんのことダイスキなんだ！！！」

知ってる……。

「……なんで？」

君がいつも俺の夢で言ってるから……。

「あたしの秘密！龍ちゃんが持ってるの！」

だから……？

「返してくれる？」

……何を？

「あたしの宝物だよ！」

どこにあるの？

「ソ」。

俺の日常。 (前書き)

今回も短めに作りました。

とつても久々なかんじになってしまいました。が、読みやすいと思うので感想おねがいします。

俺の日常。

“普通”って何だろ。

俺って“普通”だろうか。

俺は“普通”に生きたい。

そう、“普通”が羨ましい。

俺はもう、“普通”には

生きられないから。

――春。

「りゅううちゃん（　　）」

その呼び方に一瞬ドキッとした。

「お前、その呼び方やめろって。」

颯太。高校の友達。テンションがつねに高い。

「いいじゃん！龍ちゃん！笑」

「颯太、その辺にしとけて。また龍一キレるぞお！」

勇助。高校の友達。颯太に比べてとても大人。

「ンもう〜ゆうちゃんまで〜」

基本普段はこいつらと絡んで、女子といえは…颯太の彼女ぐらいしか近づこうとしない。

俺らは世間で言うヤンキーだから。

颯太は茶髪。勇助は銀髪。俺も茶髪。眉もねーし。耳はピアスの穴だらけ。唇のだって穴あけてある。

いつからって言われても、分かんねーし、直せって言われたら別に直さないこともない。でも、誰も、親だって近づこうとしない。

「なあなあ！こないだ行つたゲーセン！！めっちゃかわいい子いたよな〜（＾3＾） 今日行こーぜ！」

「あのな〜お前には“優麻”ちゃんがいるだろ？？」

「まあまあ！そんなにケチケチしなさんな（＾3＾）」

こいつらは、おもしろい。世間がどんな目でみようが、こいつらは俺の大事なモノだ・・・

・・・龍ちゃん。

“それ”が龍ちゃんの大事なモノ？

違うよね。

私のものは？

忘れたなんていわせないから・・・

絶対に。

この頃から、止まっていけないといけないはずの過去が、ゆっくりと時を刻み始めた。

俺は、その過去から一歩でも遠ざかりたい一心で、1人で走っていた。

大事なモノを守りたかった。

大切なモノも守りたかった。

自分の“日常”を守りたかった・・・

それでも、過去は無情にも、俺に手を伸ばそうとしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0385o/>

ダイスキダヨ。

2011年10月7日23時03分発行